

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 施設名   | メリー★ポピンズ南砂ルーム       |
| 施設所在地 | 東京都江東区東砂7-10-3 E棟1階 |
| 法人名   | 社会福祉法人どろんこ会         |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵の具との出会いから、様々な楽しみ方への広がり

<テーマの設定理由>

- ・自分の指や手足、さらには道具を使った様々な絵の具による表現活動を、日頃から展開している。
- ・色の混ざり方や使用する画材の違いによって、子どもたちに様々な気づきが生まれていることを日頃から感じており、その気づきをさらに発展させたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

1歳児、2歳児、異年齢クラス（3～5歳児）の3つのクラスに分かれて、月1回以上、絵の具を使用する活動を取り入れた。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・1、2歳児は、自分の手指、足を使った表現活動から、野菜の切れ端や廃材、スポンジやローラーを使った絵の具とのふれあいを展開した。
- ・3～5歳児は、絵筆やスタンプ、ローラー等、描く道具を変化させていった。また表現する画材を画用紙や和紙などに変化させることで、絵の具の滲み具合や、混ざり具合等の変化に気づくことが出来るように配慮した。また色の混ざり具合を子ども自らが考えられるように導いた。
- ・8月に全クラスでボディペインティングを行った。
- ・3～5歳児は、絵の具コーナーを常設し、子どもたちの興味関心に応じて表現できる環境を用意した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

1歳児：ボディペインティング、足形スタンプを使ったうさぎ制作、スタンプング、はじき絵、手足を使った紅葉制作、筆を使ったクリスマスリース制作、タンポを使った雪だるま制作、手形鬼制作、ひなまつり制作

2歳児：ボディペインティング、手形での自由制作、筆を使った自由制作、野菜や枯葉を使ったスタンプング、スタンプングでクリスマスツリー制作、スポンジやローラーを使った制作遊び、風船を使ったかぶ制作

異年齢：ボディペインティング、ハロウィン制作、段ボールを重ねたクリスマスツリー制作、マーブリング、発表会に向けたマクドナルドと駅制作、和紙、クレープ紙、画用紙等の用紙に筆で描く。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

1歳児：自分の体を使っての絵の具活動に始めから意欲的な児と、感触を躊躇する児が見られた。躊躇する児は画具を使うことによって、徐々に活動に参加することが出来た。体を使っての絵の具活動では、その感触と色の変化を全身で楽しんでいた。はじき絵では、これまでと違う絵の具の滲み方や浮き出る絵に興味を示していた。紅葉、クリスマスツリー、雪だるま、鬼等、絵の具によって形になる楽しさを感じている様子も多く見られた。

2歳児：1歳児同様、自分の体を使っての絵の具活動に意欲的な児と躊躇する児が見られた。体を使って活動することに抵抗がない児は、1歳児よりダイナミックに活動を楽しんでいた。野菜や枯葉を使った制作では、描かれた形に興味を持っていた。丸、三角、四角、星、花等の様々な形のスタンプを用意すると、描かれる形やにじみ具合に興奮気味だった。スポンジやローラーを使った制作では、絵の具の擦れ具合に気づく児が多かった。風船に絵の具を付けてかぶを描くと、風船を押し付けることによって描かれることに興味を示していた。

異年齢児：絵の具活動に慣れていて、自分の体を使っての表現には殆どの児が抵抗がなかった。絵の具を使う環境を部屋に常設したことによって、描きたい、作りたいと声を上げる児が多くいた。同じ筆で異なる色を使うと、色が混ざること理解していた。常設したことによって、イメージを表現し想像力が膨らんでいるように感じた。段ボールを重ねてクリスマスツリーを作った際は、テープの部分が絵の具をはじいてしまうことが不思議な様子だった。マーブリングでは、水に液を垂らしてもすぐに混ざらない様子や、液が水に沈んでいく様子を不思議がっていた。発表会に向けた制作では、大きな段ボールに大きなローラーを使って大胆に描いていた。描く素材の違いでは、水を多く含ませることによって素材の違いに気づいていた。素材によって、色のしみこみ方や広がり方に違いがあることに気づいていた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

1歳児：始めは絵の具の感触を嫌がる児がいたが、経験を重ねることによって、周囲が楽しんでいる様子を感じ、自ら活動に参加するようになったことから、機会を多用することの大切さを感じた。また個々によって感じ方や取り組み方に違いがあることから、提供する画具を多様化すること、子どもの発達に合ったものを提供することの大切さを感じた。年間の活動を通して、人との関りや、ルールを守る大切さも学んでいるように感じた。

2歳児：子どもによって、絵の具で汚れることへの抵抗がだいぶ異なっていた。汚れることに抵抗がある児は、個別に対応したり、画具を提供したりすることで、徐々に抵抗がなくなり活動に参加することが出来た。色の混ざり方に気づく児がいたので、混色への興味関心を今後広げていきたいと感じた。画具によっての絵の具の濃度にも配慮すべきと感じた。

異年齢児：全身を使った表現には抵抗がないので、今後も機会を多用していく。絵の具コーナーを常設したことにより、子どもたちにとって、絵の具が身近なものになり、意欲的に表現活動をしようとする児が増えた。機会が増えることで、創作意欲が増し、子どもの想像力を掻き立てることも出来たと感じる。画材の違いについては、取り組み始めたばかりなので今後も取り組んでいきたい。活動を重ねるうちに、友だちの作品に興味を持ったり、協力したりする姿が見られた。あまり言葉をかけずに素材を用意したことで、子ども自らが試し遊びを繰り広げたり、考えや発見を共有したり、会話も生まれ友達関係が発展した。環境を設定することの大切さを感じた。